

2016年度 町田市病院事業運営評価委員会（第二回）の概要

運営評価委員会とは…

町田市民病院の運営状況について、有識者4名、地域住民代表1名、計5名の委員に適正かつ公正な評価をしていただき、医療及びサービスの質の向上を図るために設置するものです。

- 日時：2017年1月25日（水） 15時30分～17時00分
- 委員：関連大学代表、医師会代表、税理士、地元町内会代表、
経営コンサルタント（欠席）
- 出席者：市長、病院事業管理者、副院長(統括)、副院長(救急担当)、
消化器内科部長、看護部長、副看護部長、
事務部長、医事調整担当部長 外11名
- 議事
 - (1) 町田市民病院中期経営計画の進捗状況（2016年度上半期）について
 - (2) 2016年度町田市病院事業会計財政見通し
 - (3) 町田市民病院次期中期経営計画（2017年度～2021年度）について
 - (4) 2017年度町田市民病院事業計画（案）
 - (5) 質疑・意見交換



●いただいた主な意見

- ・ 診療単価の低い患者さんは、診療内容から考えて、市民病院で診なくても地域の診療所等で診ていただける患者さん。市民病院は地域の診療所等で診られないような患者さんにエネルギーを注ぐべき。診療単価が低いから診ないということではないが、市民病院でなくても大丈夫という患者さんには、医療の機能分担を理解していただく必要がある。
- ・ 救急体制というのは一次・二次・三次とあり、ひとつの病院ですべてをやるのは無理で、特化しないと病院がもたない。町田市民病院の役割としては、二次救急医療をきちんとやっていくということが重要。入院が必要だけれども大病院ほどの機能は必要ないという方を、きちんと診るという体制を整えていただくのが市民にとって非常に重要なこと。
- ・ 町田・八王子・日野・稲城・多摩で南多摩保健医療圏となるが、町田はまわりを神奈川県に囲まれている。南多摩保健医療圏は回復期病床が足りないということになっているが、町田市民病院としてはむしろ急性期をきちんとやらなければならない。
- ・ 逆紹介（町田市民病院から地域の診療所等への紹介）というのは非常に重要で、地域連携は紹介（診療所等から町田市民病院への紹介）からではなく逆紹介から始まる。
- ・ 診療所等の医師としては、市民病院の医師と実際に顔を合わせることで連携しやすくなる。最近では顔を合わせる機会が増えているが、診療所の雰囲気がかればさらに良いと思う。地域の医師は市民病院に顔を出しているのだから、市民病院の医師にも見ていただければありがたいと思う。
- ・ 医師会から見て町田は、急性期病院と一般病院との連携がうまくいっている方だと思う。
- ・ クリニカルインディケーター（臨床指標）の公表は医療の質につながる。どこの病院もホームページで基本的な指標を公開しているが、それ以上の指標を積極的に公開することで他院との差別化ができる。
- ・ 平均在院日数が短くなるのは仕方のないこと。そのうえで利用率を上げていくために、クリニカルパスをどれだけ利用できるかが重要。
- ・ 医師ひとりあたりの収益を出すよりも、診療科ごとに昨年と比べてどうだったかなど継時的な比較をすると良い。医師ひとりで診療をしているわけではなく、ほかの医療職も関わっている。